

目 次

第1章 調査の目的と方法	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象者	1
3. 調査項目	1
4. 調査方法及び時期	2
5. 調査企画分析委員	2
第2章 対象者の逸脱行為、犯罪被害、生活上の不安	3
1. 不良行為の実態	3
2. 犯罪行為の実態	5
3. 犯罪被害の実態	6
4. 生活上の犯罪等に対する不安	7
5. 青少年の生きがいや、効力感に対する外的基準の設定	9
第3章 幸せ感と逸脱	13
1. 幸せ感	13
2. 被害体験・被害不安と幸せ感	15
3. 幸せ感と逸脱	17
4. まとめと今後の課題	19
5. 文献	19
第4章 青少年の効力感、時間的展望と逸脱行為、犯罪被害および被害不安について	20
1. 将来の成功に関する効力感	20
2. 将来の成功の重要度	23
3. 逸脱行為や被害体験・被害不安と効力感の関係	25
4. 逸脱行為や被害体験・被害不安と重要度の関係	28
5. 逸脱行為と時間的展望との関係	30

第5章 青少年の自己評価、自尊感情と逸脱行為、犯罪被害、被害不安	33
1. 個別領域の自己評価	33
2. 自尊感情	42
3. 自尊感情と個別領域の自己評価の関係	48
4. まとめ：逸脱経験・被害体験・被害不安と自己評価・自尊感情	49
5. 引用文献	52
第6章 学校役割観	53
1. 学校役割観について	53
2. 自分の将来能力期待	53
3. 学校役割観	57
4. 学校への信頼感の所在	62
付表	63
調査票	73